

進路指導室へようこそ2

前橋女子高校進路指導部

令和6年度 MJ 進路通信 第51号

令和7年3月7日（金）発行

■卒業式が行われました

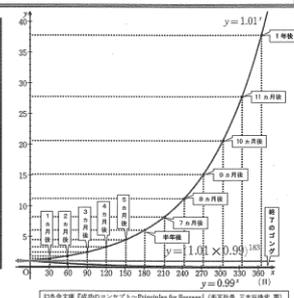


3日の月曜日、3月には珍しい土砂降りのなか卒業式が行われ、3年生が前女を巣立っていきました。卒業生代表のOさんの言葉からは、前女での3年間のたくさんの思い出とともに、周りの人への大きな感謝の気持ちが伝えられ、前女らしい感動的な卒業式となりました。3階の教室がぼっかりと空いた校舎は、寂しさがまだ残りますが、3年生の卒業とともに、実質的に1学年上のステージに立った皆さんには、これまでの前女の伝統をしっかり受け継いでますます前女を盛り上げてほしいと思います。そして、よく見ておいてほしいのは、卒業後も学校に来て後期入試のために勉強を続ける先輩の姿（合格が決まって私服で楽し気に学校に来る先輩もいますが・・・）。最後の最後まで望みを捨てずに努力を重ねる先輩の姿は、きっと後輩の皆さんにとっても大きな刺激になるはずですよ。

■と、いうわけで、進路だよりを読み返すと・・・

1.01 の法則 $1.01^{365} \approx 37.8$
 コツコツ努力すれば、やがて大きな力となる。

0.99 の法則
 $0.99^{365} \approx 0.026$
 逆に、少しずつサボれば、やがて力がなくなる。



※ 1日互いの繰り返しは、ただだか現状維持止まり。

今年度の進路だより8号で紹介したグラフ、覚えていますか？2年生は卒業までちょうど1年。この1年間、

高校生活のゴールに向けて、1日1日をどのように過ごしていくか、改めて見つめ直すきっかけにしてほしい。ほんの少しの前向きな変化でも、1年続ければとてつもない大きな変化になります。ほんのちょっとした妥協が1年間かけて大きなダメージにもなります。

■「そんなもの、積分すればマイナスよ！！！！」

一昨年度の共通テスト（数学ⅡB）の問題に、ソメイヨシノの開花日を気温のグラフの定積分を利用して予測する、という問題がありました。

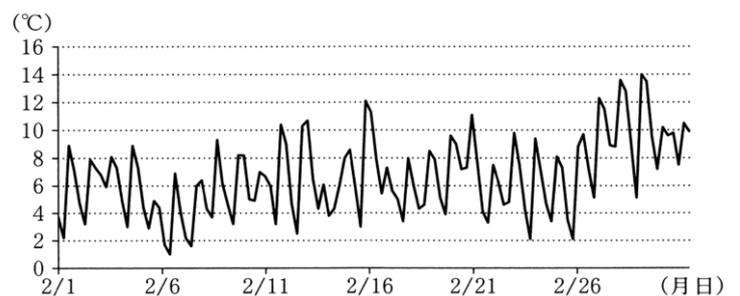


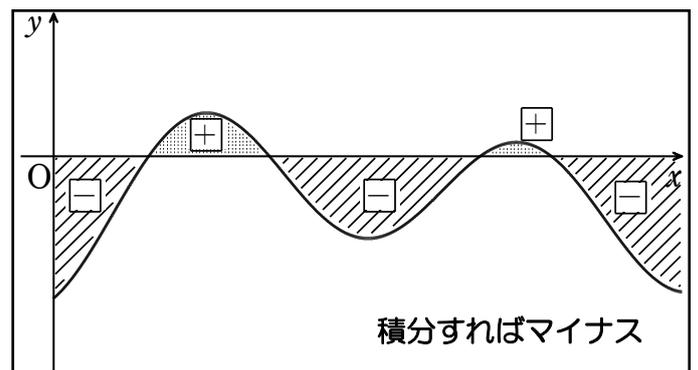
図1 6時間ごとの気温の折れ線グラフ

設定

正の実数 t に対して、 $f(x)$ を 0 から t まで積分した値を $S(t)$ とする。すなわち、 $S(t) = \int_0^t f(x) dx$ とする。この $S(t)$ が 400 に到達したとき、ソメイヨシノが開花する。

つまり、ソメイヨシノというのは、日々の気温の積み重ねが一定値に達したときに開花する、というもので、気温の積み重ねは上のグラフがつくる面積によって表される、という原理です（1年生は来年勉強してくださいね）。

学習の成果（つまり、桜が咲くか）も、同じ理屈です。日々の学習量の積み重ねが一定値に達したところで初めて成果として現れる（それまでは蕾の状態が長く続く）ものです。逆に、ある一時だけ強く頑張ったとしても多くの期間でマイナスの努力だったらそれこそ「積



分すればマイナス」になる訳です。ちなみにindexでの言葉は、某進路主事がこよなく愛する数学漫画「数字であそぼ」第7巻にて、恋に溺れて危うく悪い男に騙されそうになった世見子さんの目を一発で覚まさせた破壊力のある台詞です。



■ 3月の進路意識向上企画

今月も、OGの先輩や卒業生の力を借りて、後輩の皆さんのためのさまざまな進路企画を用意しています。モチベーションを高めるきっかけに！

①TEAM-OG企画「東大生OGによる座談会」(3/10)

10日の放課後に、本校OGで現在東京大学工学部3年に在籍しているMさんに本校を訪問していただき、OGによる座談会を開催することになりました。東京大学や、理工系の分野に興味のある人にとっては、大学の様子や最先端の学びについて知る絶好の機会だと思います。また、Mさんは東京大学の推薦入試で合格を勝ち取った先輩ですので総合型選抜や学校推薦型選抜入試を考えている人にとっても貴重なアドバイスをいただけたと思います。



②合格体験談報告会(3/14)

14日には今年度の入試で見事第一志望校への合格を勝ち取った卒業生をお招きし、「合格体験談報告会」を開催します。身近でその努力を見てきた先輩たちの経験は、皆さんにとって大きな刺激になるはずです。毎年この報告会を聞いて、「来年は自分が合格を勝ち取ってこの場に立ちたい！」と頑張る前女生がたくさんいます。放課後まで残って個別の相談にも応じてくれますので楽しみにしてください(講師の先輩は後日決定します)。

先日、ある卒業生(元3年生)が進路指導室を訪れ、進学先の選択に迷っているとの相談を受けました。ちょうど選択肢の大学に通っているTEAM-OGの先輩Fさんがいたので紹介し、Fさんにももしよかったら話をきいて相談に乗ってあげて欲しい、と依頼したところ、何と週末に予定をあけてくれて大学のキャンパスの案内までしてくれたそうです。相談に来た卒業生はいたく感動していました。本当にありがたいことです。

■ 「大学入試を知る」第11回(後期入試とは)

国公立大前期日程の入試が終了し、卒業していった先輩たちの中には、今も学校に来て勉強している人もいます。彼女たちは何の勉強をしに来ているのでしょうか。

実は国公立大学の入試日程には[前期・中期・後期]の3つの日程が設定されており、残念ながら前期で不合格だった受験生が中期・後期の入試に臨むことがあります(一部後期日程のみ実施する大学もあります)。学校に来ている卒業生の多くは、6日から行われる前期日程の合格発表をうけて、もし不合格だった場合に備えて12日から始まる後期入試の準備をしているわけです(偉いですよ。本当に頭が下がります)。

国公立大への進学を目指す受験生にとっては、まさしくラストチャンスといえます。その性質上、敗者復活戦的なイメージがあり、また公表される倍率も高倍率のところが多いため、どうしても悲壮感漂う受験に見られがちです。ですが、後期日程は国公立大学を目指す生徒にとっては意外にチャンスが多い、というのも事実です。

区分	試験実施大学・学部等数		欠席率(%)
国立	(69大学)	(265学部)	(62.7)
	69大学	268学部	63.5
公立	(60大学)	(122学部)	(64.8)
	61大学	123学部	64.3
計	(129大学)	(387学部)	(63.2)
	130大学	391学部	63.7

上の表は、ある年の後期日程の欠席率を表したものです。出願したものの前期で合格した人や(前期入試の入学手続きをした時点で後期入試の受験資格がなくなります)、私大への進学を決めた人は当然受験しませんから、見た目以上に倍率が低いのが実情です。毎年、「実際に受験してみたら席がスカスカだった」という声を必ず聞きます。また、最近では後期入試の合格発表が終わった直後に追加合格の連絡が来て、最後の最後で入学の切符を手にした生徒もいます。進学先を決めた人が新しい生活の準備を始める姿を見ながら受験するのは、確かに辛いですが、それでも最後まで頑張っていれば大きなチャンスがまだ残っているのです。国公立大や現役での進学の優先度が高い人は、第一志望校に加え、後期日程をどうするかということも考えながら受験計画を立てることになります。